

2018年4月1日

## 西宮つとがわYMCA保育園 4月えんだより

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

年主題聖句 「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、  
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」  
＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節＞

入園、進級おめでとうございます。

新入園のおともだちやおうちの方々はときどきしながら迎えた4月でしょう。進級のおともだちは少しずつ成長、特にあこがれていたお兄ちゃんお姉ちゃんたちの部屋に行ったり遊びができたり、変化の中で喜び、でもちょっとは不安を感じているときだと思います。

保育園では礼拝のとき、幼児のお友だちはグループタイムのとき、讃美歌を歌います。讃美歌は多数ありますが、時に適った歌を保育者が考えて、その月の讃美歌として子どもと一緒に歌い、皆さんにも園だよりで紹介させていただいています。その中に「球根の中に」という歌（讃美歌 21-575番）があります。ちょっと子どもには歌詞が難しいのですが、一番の歌詞は、

♪球根の中には 花が秘められ さなぎの中から いのちはばたく  
寒い冬の中 春はめざめる その日 その時を ただ神が知る

となっています。私は歌詞を聞いているだけで、情景として2月から4月にかけての季節の移り変わりを感じます。でも子どもたちが進級していくこの季節に歌詞を聞くともっと深い部分まで想起させるものがあります。

保育園の入園説明のとき、保護者会のとき、YMCAの思いを伝えるのに木の根っこの話をさせていただいています。種に水をやりすぎても腐りますし、根っこを引っ張っても早く育つわけではありません。木が根を張り、大きくなっていくのは木自身の力です。同じように大人が過剰にかかわっても子どもは成長するどころか自ら育つ力が損なわれることでしょう。様々な出会い、様々な経験を通して、子ども自身が自らの力で育っていくのです。保育園での、異年齢の関わり合い、散歩や遠足など地域での出会い、そしてお話、活動など園の生活の中で、子ども一人一人にとっての機会があり、それぞれの成長をしていくのでしょ。いろいろな機会をつくりながらも、ただ子どもを信じて関わっていく、そんな姿勢の大切さをこの歌詞から学びます。子どもたちのあるがままを受け入れながら、成長しようとしている「今、この時を喜び生きる」姿を支える保育を行えるよう歩みたいと思います。

4月の聖句「子供たちをわたしのところへ来させなさい。

…そして子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」

＜マルコによる福音書 10章 14～16節＞

4月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おはよう	であう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分が受け入れられていると感じ、安心する</li> <li>* 新しく出会った人やものに親しみを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保育者の姿や祈りを通して神様と出会う</li> <li>* 友だちや保育者に親しみをもつ</li> <li>* 好きなあそびを見つけ安心して過ごす</li> </ul>
讃美歌	ことりたちは こども改10	ことりたちは こども改10